

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4311949号
(P4311949)

(45) 発行日 平成21年8月12日 (2009. 8. 12)

(24) 登録日 平成21年5月22日 (2009. 5. 22)

(51) Int. Cl.

F 1

A 6 1 B 17/12 (2006. 01)

A 6 1 B 17/12 3 2 0

A 6 1 B 1/00 (2006. 01)

A 6 1 B 1/00 3 3 4 D

請求項の数 3 (全 12 頁)

(21) 出願番号 特願2003-48458 (P2003-48458)
 (22) 出願日 平成15年2月26日 (2003. 2. 26)
 (65) 公開番号 特開2004-254886 (P2004-254886A)
 (43) 公開日 平成16年9月16日 (2004. 9. 16)
 審査請求日 平成18年1月24日 (2006. 1. 24)

(73) 特許権者 000113263
 H O Y A 株式会社
 東京都新宿区中落合2丁目7番5号
 (74) 代理人 100091317
 弁理士 三井 和彦
 (72) 発明者 杉山 章
 東京都板橋区前野町2丁目36番9号 ペ
 ンタックス株式会社内
 (72) 発明者 遠藤 透
 東京都練馬区東大泉2丁目5番2号 ペン
 タックスプレジジョン株式会社内
 審査官 川端 修

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 内視鏡用クリップ装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

軸線方向に進退自在な外套管が可撓性シースに全長にわたって被覆されて、上記可撓性シースの先端に配置されたクリップが、上記可撓性シース内に軸線方向に進退自在に挿通配置された操作ワイヤを上記可撓性シースの基端に連結された操作部から牽引操作することにより閉じた状態に保持され、そのようにして閉じた状態に保持されたクリップを上記可撓性シースと上記操作ワイヤから分離することができるように構成された内視鏡用クリップ装置において、

上記操作部に、軸線周りに回転操作することによって上記可撓性シースの基端部と上記操作ワイヤの基端部とを軸線方向に相対的に進退させる第1の回転操作輪と、軸線周りに回転操作することによって上記可撓性シースの基端部と上記外套管の基端部とを軸線方向に相対的に進退させる第2の回転操作輪とが設けられ、

上記外套管の基端に取り付けられた外套管基端口金に上記第2の回転操作輪が支持されて、上記第2の回転操作輪の回転操作により上記外套管基端口金に対し軸線方向に進退するように上記可撓性シースの基端に取り付けられたシース基端口金に上記第1の回転操作輪が支持され、上記第2の回転操作輪が回転操作されると、上記可撓性シースと上記操作ワイヤとが上記外套管に対し軸線方向に一体的に進退することを特徴とする内視鏡用クリップ装置。

【請求項 2】

上記操作ワイヤを上記可撓性シースに対して相対的に基端側に移動させることにより上記

10

20

クリップが閉じ、逆に上記操作ワイヤを上記可撓性シースに対して相対的に先端側に移動させることにより上記クリップを開くことができる請求項1記載の内視鏡用クリップ装置。

【請求項3】

上記操作ワイヤを、上記可撓性シースに対して軸線方向に移動させることなく軸線周りに回転させるための操作ワイヤ回転操作輪、が併設されている請求項1又は2記載の内視鏡用クリップ装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

この発明は、内視鏡の処置具挿通チャンネルに通して使用されて、体内の止血、結紮或いはマーキング等を行うために用いられる内視鏡用クリップ装置に関する。

【0002】

【従来の技術】

内視鏡用クリップ装置は一般に、可撓性シースの先端に配置されたクリップが、可撓性シース内に軸線方向に進退自在に挿通配置された操作ワイヤを基端側から牽引操作することにより閉じた状態に保持され、そのようにして閉じた状態に保持されたクリップを可撓性シースと操作ワイヤから分離することができるように構成されている。

【0003】

そして、操作ワイヤを牽引操作するための操作部が可撓性シースの基端に連結されており、従来の操作部は、操作ワイヤの基端に直結された指掛けを軸線方向にスライドさせるようになっており、作動を途中で静止させるためのラチェット機構等が付加されている（例えば、特許文献1）。

【0004】

【特許文献1】

特開2002-191609

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

体内の患部を内視鏡用クリップ装置でクリッピングする操作は、内視鏡の処置具挿通チャンネルに通されたクリップ装置による遠隔操作であり、体内に留置したクリップが早期に脱落しないように患部に対して正確にクリッピングするためには、クリップの微妙な開閉操作が必要となる場合が少なくない。

【0006】

しかし、上述のように、操作ワイヤの基端に直結された指掛けを軸線方向にスライドさせる構造では、操作ワイヤの進退操作の微調整を行うことができないので、クリッピングが不完全なものにならざるを得ない場合が少なくない。また、ラチェット機構等を有するため、操作部の構造が複雑で操作上も扱い難いものになっていた。

【0007】

そこで本発明は、操作ワイヤの進退操作を微調整を含めて容易に調整して正確なクリッピングを行うことができ、しかも操作部にラチェット等のような複雑な構造を必要としない内視鏡用クリップ装置を提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】

上記の目的を達成するため、本発明の内視鏡用クリップ装置は、可撓性シースの先端に配置されたクリップが、可撓性シース内に軸線方向に進退自在に挿通配置された操作ワイヤを可撓性シースの基端に連結された操作部から牽引操作することにより閉じた状態に保持され、そのようにして閉じた状態に保持されたクリップを可撓性シースと操作ワイヤから分離することができるように構成された内視鏡用クリップ装置において、操作部に、軸線周りに回転操作することによって可撓性シースの基端部と操作ワイヤの基端部とを軸線方向に相対的に進退させる回転操作輪を設けたものである。

【0009】

また、本発明の内視鏡用クリップ装置は、軸線方向に進退自在な外套管が可撓性シースに全長にわたって被覆されて、可撓性シースの先端に配置されたクリップが、可撓性シース内に軸線方向に進退自在に挿通配置された操作ワイヤを可撓性シースの基端に連結された操作部から牽引操作することにより閉じた状態に保持され、そのようにして閉じた状態に保持されたクリップを可撓性シースと操作ワイヤから分離することができるように構成された内視鏡用クリップ装置において、操作部に、軸線周りに回転操作することによって可撓性シースの基端部と操作ワイヤの基端部とを軸線方向に相対的に進退させる第1の回転操作輪と、軸線周りに回転操作することによって可撓性シースの基端部と外套管の基端部とを軸線方向に相対的に進退させる第2の回転操作輪とを設けたものである。

10

【0010】

なお、操作ワイヤを可撓性シースに対して相対的に基端側に移動させることによりクリップが閉じ、逆に操作ワイヤを可撓性シースに対して相対的に先端側に移動させることによりクリップを開くことができるようにしてもよい。

【0011】

また、操作ワイヤを、可撓性シースに対して軸線方向に移動させることなく軸線周りに回転させるための操作ワイヤ回転操作輪、が併設されていてもよい。

【0012】

【発明の実施の形態】

図面を参照して本発明の実施例を説明する。

20

図2は内視鏡用クリップ装置の全体構成を示しており、例えばステンレス鋼線材を一定の径で密着巻きして形成された可撓性シース2に、例えば四フッ化エチレン樹脂チューブ等のような可撓性チューブからなる外套管6が緩く被覆されている。

【0013】

そして、その基端側に操作部20が連結され、先端側には留置クリップユニット10を装着するための閉じ筒体受け3が配置されている。なお、可撓性シース2及び外套管6は超弾性合金パイプ等によって形成してもよい。10は、留置クリップユニットである。

【0014】

図3は留置クリップユニット10を示しており、この実施例においては、例えば超弾性合金やバネ性のあるステンレス鋼材等からなる3個のクリップ爪11が、それらの後端部A付近を弾性変形させることにより後端部A付近を基点に開閉するように、中心軸線の周囲に略120°間隔で広がった形状に配置されて、後端部に設けられた筒状連結部12において互いに連結されている。筒状連結部12の後端部は開放されている。

30

【0015】

13は、後述する連結部材5に対して係合させるための係合クリック部であり、板バネ状になるように、筒状連結部12を平行な一對のスリ割りによって後方から切り分けて、筒状連結部12及びクリップ爪11と一体に形成されている。そして、係合クリック部13の後端近傍には内方に向かって突出する内方突起13aが形成されている。

【0016】

筒状連結部12には、留置クリップユニット10を構成するもう一つの部品である例えばステンレス鋼管材からなるクリップ閉じ筒体15が、軸線方向にスライド自在に後方から被嵌されている。クリップ閉じ筒体15の外周面には、閉じ筒体受け3の内面凸部3aと係合させるための円周溝15aが形成されている。

40

【0017】

筒状連結部12とクリップ閉じ筒体15とは、相対的にスライド移動させるのにある程度の力を加える必要があるように弾力的に摩擦係合しており、クリップ閉じ筒体15を筒状連結部12側からクリップ爪11に被さる状態に移動させることにより、クリップ爪11が弾性変形して閉じた状態に保持される。

【0018】

このようにして、3個のクリップ爪11の全てを後端部A側において一つなかりに連結し

50

ている筒状連結部 1 2 に対して後方からクリップ閉じ筒体 1 5 を被嵌して、留置クリップユニット 1 0 が構成されている。

【0019】

図 2 に戻って、可撓性シース 2 の先端に取り付けられている閉じ筒体受け 3 は、クリップ閉じ筒体 1 5 に被嵌される円筒状部材を半周分切除した形状に形成されており、閉じ筒体受け 3 の先端部分の内周面には、クリップ閉じ筒体 1 5 の外周面の円周溝 1 5 a と係合する内面凸部 3 a が半周にわたって突出形成されている。

【0020】

その結果、閉じ筒体受け 3 に対してクリップ閉じ筒体 1 5 を側方から係脱させることができ、閉じ筒体受け 3 の内面凸部 3 a をクリップ閉じ筒体 1 5 の円周溝 1 5 a に嵌め込むことにより、双方の段部が当接し合って、後述する図 4 等 に示されるように、クリップ閉じ筒体 1 5 が閉じ筒体受け 3 に対して軸線方向に移動できない状態に係合する。

10

【0021】

図 7 は、留置クリップユニット 1 0 が内視鏡用クリップ装置の先端部分に装填された使用準備状態を示しており、外套管 6 が、クリップ爪 1 1 部分にまで被嵌される。

【0022】

閉じ筒体受け 3 はロー付け等によって可撓性シース 2 の先端に固着されており、可撓性シース 2 内には、操作ワイヤ 4 が軸線方向に進退自在に挿通配置されていて、可撓性シース 2 の基端に連結された操作部 2 0 から、操作ワイヤ 4 を可撓性シース 2 に対して相対的に軸線方向に進退操作することができる。

20

【0023】

操作ワイヤ 4 の先端には、クリップ閉じ筒体 1 5 が係合クリック部 1 3 に被さっていない状態の時に筒状連結部 1 2 に対して後方から係脱自在な連結部材 5 が連結・固着されている。

【0024】

連結部材 5 は、頭部が丸められた円柱状に形成された先側半部が筒状連結部 1 2 内に緩く嵌合し、中間部分には、係合クリック部 1 3 に形成された内方突起 1 3 a が係合する括れ部 5 a が形成されている。

【0025】

その結果、係合クリック部 1 3 にクリップ閉じ筒体 1 5 が被さっている時は係合クリック部 1 3 と括れ部 5 a との係合が外れず、クリップ閉じ筒体 1 5 が被さっていない状態の時に、係合クリック部 1 3 を外側に弾性変形させることにより内方突起 1 3 a と括れ部 5 a とを係脱させることができる。

30

【0026】

図 4 ないし図 6 は、内視鏡用クリップ装置を図 7 に示される使用準備状態にするまでの、留置クリップユニット 1 0 の取り付け作業の手順を示しており、その前に、図 2 に示されるように、留置クリップユニット 1 0 側において、係合クリック部 1 3 が露出する程度にクリップ閉じ筒体 1 5 を前方寄りにスライドさせ、それによってクリップ爪 1 1 が閉じられた状態にしておく。

【0027】

40

そして、図 4 に示されるように、閉じ筒体受け 3 の内面凸部 3 a を側方からクリップ閉じ筒体 1 5 の円周溝 1 5 a に嵌め込み、図 5 に示されるように、基端側から可撓性シース 2 に対して操作ワイヤ 4 を相対的に押し込むと、内方突起 1 3 a が連結部材 5 の外周面と干渉するが、係合クリック部 1 3 が外側に押し広げられた状態に弾性変形することで、連結部材 5 が筒状連結部 1 2 内に入っていく。

【0028】

そのようにして、図 6 に示されるように内方突起 1 3 a が括れ部 5 a の位置まで達すると、係合クリック部 1 3 が自己の弾性によって元の広がりがない形状に戻り、内方突起 1 3 a が括れ部 5 a 内に落ち込んだ状態に係合する。

【0029】

50

そこで、外套管 6 を基端側から前方に押し出すことにより、図 7 に示されるように、全体に外套管 6 が被さった使用準備状態になり、その状態で内視鏡の処置具挿通チャンネルに通される。

【0030】

図 8 ないし図 11 は、体内における使用状態を示しており、内視鏡用クリップ装置の先端部分を内視鏡の処置具挿通チャンネルから突き出して、図 8 に示されるように、クリッピングの対象となる患部 100 にクリップ爪 11 を向ける。

【0031】

そして、可撓性シース 2 に対して操作ワイヤ 4 を前方に押し込む（又は、操作ワイヤ 4 に対して可撓性シース 2 を基端側に引っ張る）ことにより、クリップ爪 11 が、クリップ閉じ筒体 15 から抜け出て自己の弾性により開いた形状になる。またそれと同時に、係合クリック部 13 にクリップ閉じ筒体 15 が被さって連結部材 5 との係合が外れない状態になる。

10

【0032】

そこで、3 個のクリップ爪 11 の先端で患部 100 を囲んだら、図 9 に示されるように、可撓性シース 2 に対して操作ワイヤ 4 を後方から牽引操作する（又は、操作ワイヤ 4 に対して可撓性シース 2 を押し込む）。

【0033】

それによって、閉じ筒体受け 3 で押さえられているクリップ閉じ筒体 15 内にクリップ爪 11 が後端部 A 側から嵌め込まれてクリップ爪 11 が窄められ、患部 100 をクリッピングすることができる。また、その動作に伴って係合クリック部 13 部分がクリップ閉じ筒体 15 の後端から抜け出た位置に移動する。

20

【0034】

ただし、その際のクリッピングの状態が不完全だった場合には、再び可撓性シース 2 に対して操作ワイヤ 4 を前方に押し込む（又は、操作ワイヤ 4 に対して可撓性シース 2 を基端側に引っ張る）ことにより、クリップ爪 11 が自己の弾性によって開いた形状になる。

【0035】

なお、操作ワイヤ 4 を押し込んだ際に、その先端の連結部材 5 が筒状連結部 12 をクリップ閉じ筒体 15 内から押し出してしまわないように、連結部材 5 の外周面に形成された段部がクリップ閉じ筒体 15 の後端に当接して、連結部材 5 の前進を止めるようになっている。

30

【0036】

患部 100 に対して満足のいくクリッピング状態になったら、可撓性シース 2 に対して操作ワイヤ 4 を後方に強く牽引操作する（又は、可撓性シース 2 を強く押し込む）と、係合クリック部 13 の部分にクリップ閉じ筒体 15 が被さらない状態になっているので、図 10 に示されるように、係合クリック部 13 が外方に弾性変形して、連結部材 5 の括れ部 5a と係合クリック部 13 の内方突起 13a との係合が外れる。

【0037】

そして、可撓性シース 2 と外套管 6 の先端部分を少し左右に揺さぶることにより、図 11 に示されるように、留置クリップユニット 10 が患部 100 をクリッピングした状態で体内に留置され、外側から摩擦係合するクリップ閉じ筒体 15 により押さえられたクリップ爪 11 が閉じた状態を保持する。

40

【0038】

図 2 に戻って、上述のような操作を行うための操作部 20 には、操作部本体 21 に対して軸線周りに回転自在な第 1 の回転操作輪 22 と第 2 の回転操作輪 23 とが軸線方向に並んで配置されている。

【0039】

図 1 は、そのような操作部 20 の構成を示しており、操作部本体 21 は操作ワイヤ 4 の基端に固着されていて、その中間部分の外周部には雄ネジ部 21a が形成され、突端部には保持輪 21b が形成されている。

50

【0040】

可撓性シース2の基端に固着されたシース基端口金24は、操作部本体21の先側半部が緩く内挿される円筒状に形成されていて、中間部分の外周部には雄ネジ部24aが形成され、突端部には鍰部24bが形成されている。

【0041】

そして、単独で軸線周りに回転自在に操作部20に配置された第1の回転操作輪22には、操作部本体21の雄ネジ部21aと螺合する雌ネジ部22aと、シース基端口金24の鍰部24bに対して軸線方向移動が規制された状態で軸線周りに回転自在な操作輪部22bとが一体にビス止め連結されている。

【0042】

また、シース基端口金24の鍰部24b部分から軸線と平行方向に突設されたロッド25が、操作部本体21に軸線と平行方向に穿設された貫通孔26に緩く挿通されて、シース基端口金24と操作部本体21との間の相対的な軸線周り回転が阻止されている。

【0043】

その結果、操作部本体21を保持して（或いは、外套管基端口金27等を保持してもよい）、第1の回転操作輪22を軸線周りに回転操作することにより、操作部本体21とシース基端口金24とが軸線周りに回転しない状態で軸線方向に相対的に進退して、操作ワイヤ4と可撓性シース2が軸線方向に相対的に進退する。

【0044】

したがって、操作ワイヤ4と可撓性シース2との相対的な軸線方向移動を微調整を伴いつつ容易に行うことができ、第1の回転操作輪22から手を離しても調整状態が変動しないのでラチェット機構等を設ける必要がない。

【0045】

外套管6の基端に固着された外套管基端口金27はシース基端口金24の先側半部が緩く内挿される円筒状に形成されていて、その突端部には鍰部27bが形成されている。28は、可撓性の折れ止めチューブである。

【0046】

そして、単独で軸線周りに回転自在に操作部20に配置された第2の回転操作輪23には、シース基端口金24の雄ネジ部24aと螺合する雌ネジ部23aと、外套管基端口金27の鍰部27bに対して軸線方向移動が規制された状態で軸線周りに回転自在な操作輪部23bとが一体にビス止め連結されている。

【0047】

また、外套管基端口金27の鍰部27b部分から軸線と平行方向に突設されたロッド29が、シース基端口金24に軸線と平行方向に穿設された貫通孔30に緩く挿通されて、外套管基端口金27とシース基端口金24との間の相対的な軸線周りが阻止されている。

【0048】

その結果、操作部本体21と第1の回転操作輪22の一方又は両方を保持して（或いは、外套管基端口金27等を保持してもよい）、第2の回転操作輪23を軸線周りに回転操作することにより、シース基端口金24と外套管基端口金27とが軸線周りに回転しない状態で軸線方向に相対的に進退して、可撓性シース2と外套管6が軸線方向に相対的に進退する。したがって、可撓性シース2と外套管6との相対的な軸線方向移動を微調整を伴いつつ容易に行うことができる。

【0049】

図12は、本発明の第2の実施例の内視鏡用クリップ装置の操作部20の構造を示しており、第1の実施例の保持輪21bに相当する部分を、操作ワイヤ4の基端に固着されたワイヤ連結部材31aと、操作部本体21に対して軸線方向移動が規制された状態で軸線周りに回転自在な操作輪部材31bとを一体にビス止め連結した操作ワイヤ回転操作輪31によって構成してある。

【0050】

その結果、操作ワイヤ4に直結された操作ワイヤ回転操作輪31が他の部材に対して軸線

10

20

30

40

50

周りに回転自在なので、操作ワイヤ4の先端に連結されたクリップ爪11を必要に応じて手元側から軸線周りに回転させることができる。

【0051】

また、XIII-XIII断面を図13に示されるように、操作部本体21と第1の回転操作輪22と外套管基端口金27とを各々正六角形等の非円形の断面形状により嵌め合わせて軸線周りの回転を規制しているので、第1の実施例のロッド25、29が不要になっている。その他の部分は第1の実施例の構成と同じである。

【0052】

なお、本発明は上記実施例に限定されるものではなく、例えば、上記実施例では雄ネジと雌ネジとの螺合によって各回転操作輪22、23の回転運動を軸線方向移動に変えているが、それに代えてカム機構等を用いてもよい。

10

【0053】

また、操作ワイヤ4は、単線や撚り線だけでなく、中空のチューブ状のもの等であっても差し支えなく、留置クリップユニット10の構造や留置クリップユニット10と閉じ筒体受け3との連結構造等はどのような態様をとっても差し支えない。

【0054】

【発明の効果】

本発明によれば、操作部に、軸線周りに回転操作することにより可撓性シースの基端部と操作ワイヤの基端部とを軸線方向に相対的に進退させる回転操作輪を設けたことにより、回転操作輪を回転操作することにより操作ワイヤを進退操作を微調整を含めて容易に調整して正確なクリッピングを行うことができ、しかも操作部にラチェット等のような複雑な構造を設ける必要がなく優れた操作性を得ることができる。

20

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1の実施例の内視鏡用クリップ装置の操作部の側面断面図である。

【図2】本発明の第1の実施例の内視鏡用クリップ装置の全体構成を示す斜視図である。

【図3】本発明の第1の実施例の留置クリップユニットの側面部分断面図である。

【図4】本発明の第1の実施例の内視鏡用クリップ装置を図7に示される使用準備状態にするまでの、留置クリップユニットの取り付け作業の手順を示す側面断面図である。

【図5】本発明の第1の実施例の内視鏡用クリップ装置を図7に示される使用準備状態にするまでの、留置クリップユニットの取り付け作業の手順を示す側面断面図である。

30

【図6】本発明の第1の実施例の内視鏡用クリップ装置を図7に示される使用準備状態にするまでの、留置クリップユニットの取り付け作業の手順を示す側面断面図である。

【図7】本発明の第1の実施例の内視鏡用クリップ装置の使用準備状態の先端部分の側面断面図である。

【図8】本発明の第1の実施例の内視鏡用クリップ装置が使用される際の先端部分の状態を示す側面断面図である。

【図9】本発明の第1の実施例の内視鏡用クリップ装置が使用される際の先端部分の状態を示す側面断面図である。

【図10】本発明の第1の実施例の内視鏡用クリップ装置が使用される際の先端部分の状態を示す側面断面図である。

40

【図11】本発明の第1の実施例の内視鏡用クリップ装置が使用される際の先端部分の状態を示す側面断面図である。

【図12】本発明の第2の実施例の内視鏡用クリップ装置の操作部の側面断面図である。

【図13】本発明の第2の実施例の内視鏡用クリップ装置の図12におけるXIII-XIII断面図である。

【符号の説明】

2 可撓性シース

4 操作ワイヤ

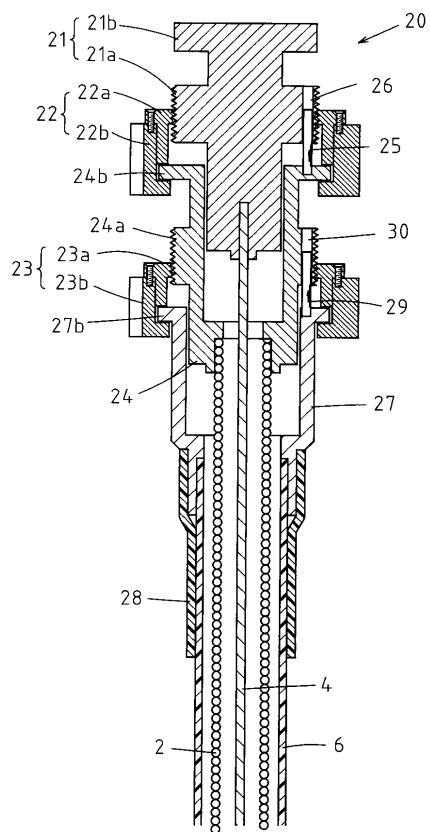
6 外套管

10 留置クリップユニット

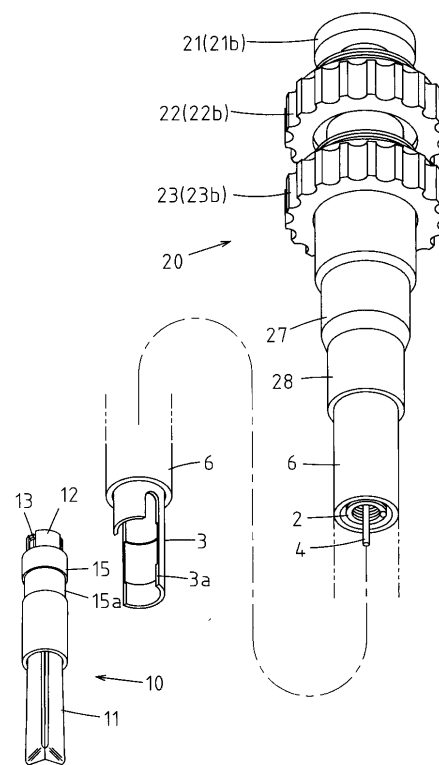
50

- 1 1 クリップ爪
- 1 2 筒状連結部
- 2 0 操作部
- 2 1 操作部本体
- 2 1 a 雄ネジ部
- 2 2 第 1 の回転操作輪
- 2 2 a 雌ネジ部
- 2 3 第 2 の回転操作輪
- 2 3 a 雌ネジ部
- 2 4 シース基端口金
- 2 7 外套管基端口金
- 3 1 操作ワイヤ回転操作輪

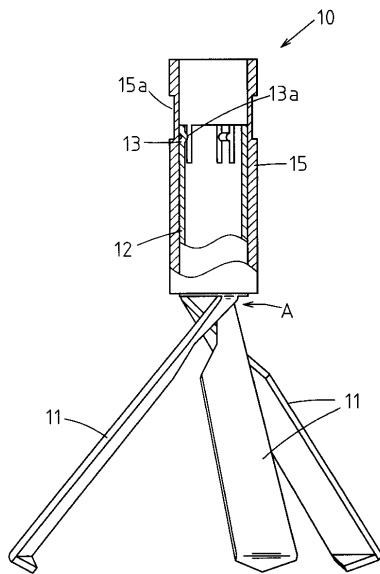
【図 1】



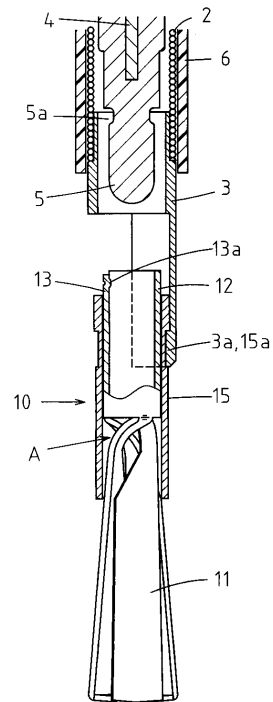
【図 2】



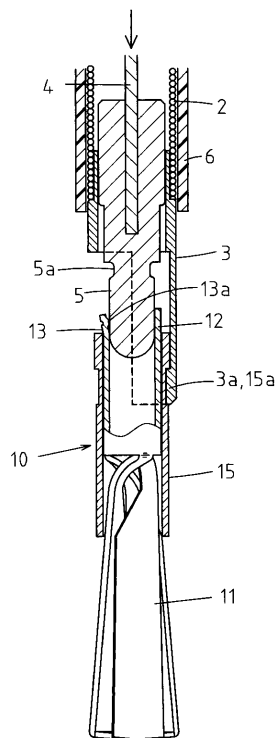
【図 3】



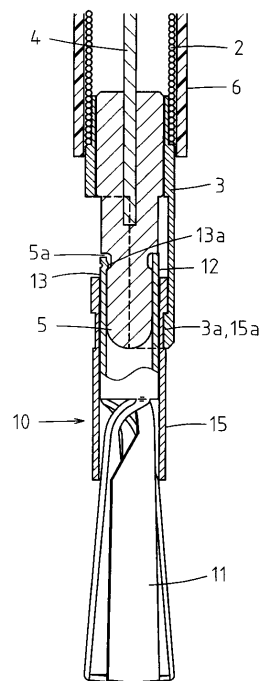
【図 4】



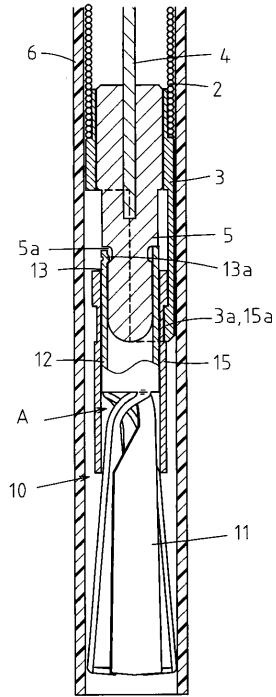
【図 5】



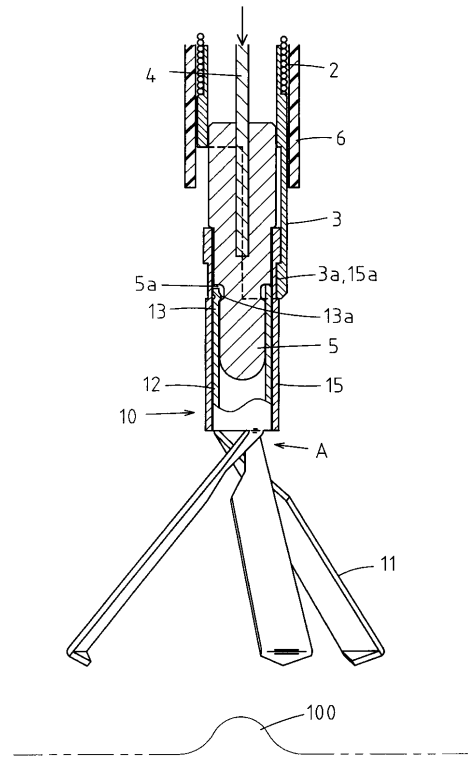
【図 6】



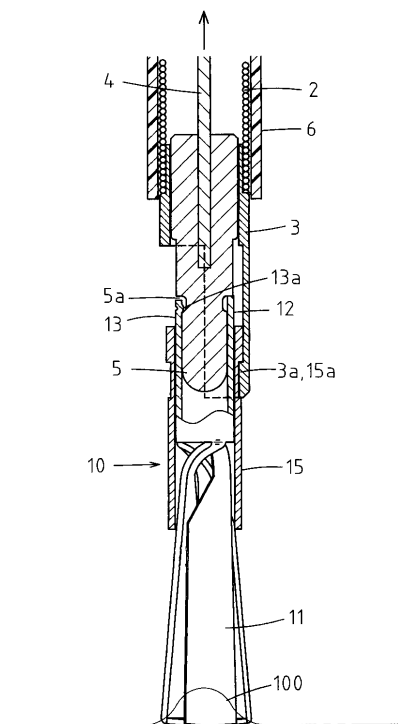
【図 7】



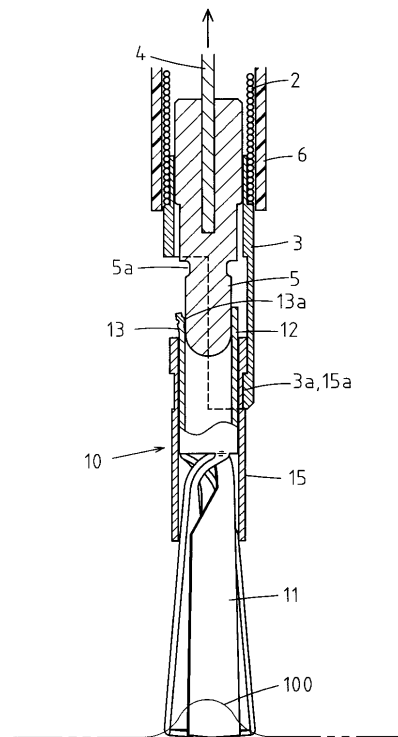
【図 8】



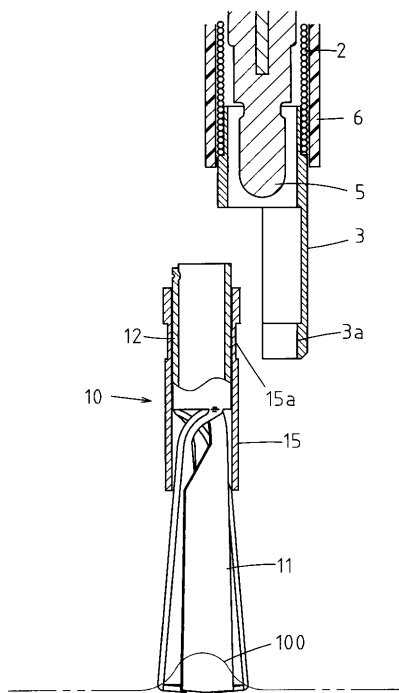
【図 9】



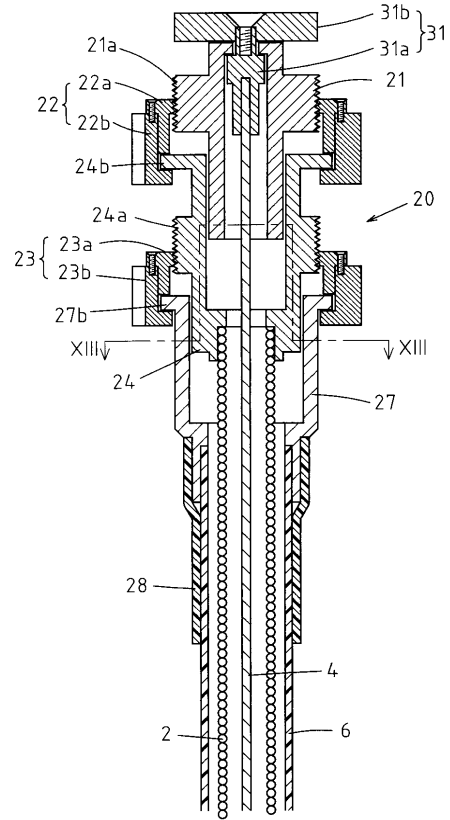
【図 10】



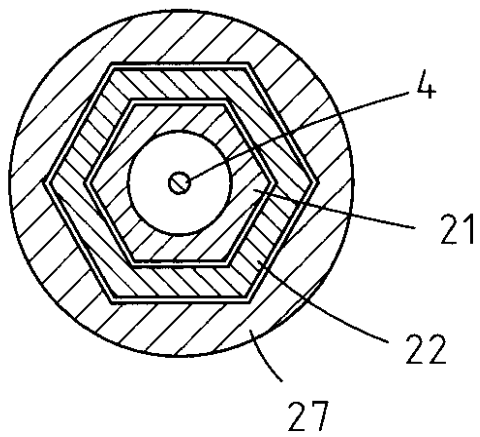
【図 1 1】



【図 1 2】



【図 1 3】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開2002-191609 (JP, A)
特開平04-061854 (JP, A)
実開昭57-009914 (JP, U)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A61B 17/12
A61B 1/00

专利名称(译)	内窥镜夹子装置		
公开(公告)号	JP4311949B2	公开(公告)日	2009-08-12
申请号	JP2003048458	申请日	2003-02-26
[标]申请(专利权)人(译)	旭光学工业株式会社 宾得精密		
申请(专利权)人(译)	宾得株式会社 宾得精密有限公司		
当前申请(专利权)人(译)	HOYA株式会社		
[标]发明人	杉山章 遠藤透		
发明人	杉山 章 遠藤 透		
IPC分类号	A61B17/12 A61B1/00		
FI分类号	A61B17/12.320 A61B1/00.334.D A61B1/018.515 A61B17/128		
F-TERM分类号	4C060/DD16 4C060/DD26 4C060/MM24 4C061/GG15 4C061/HH21 4C061/JJ06 4C061/JJ11 4C160/DD16 4C160/DD26 4C160/MM32 4C160/NN03 4C160/NN04 4C160/NN09 4C160/NN13 4C160/NN14 4C160/NN15 4C160/NN16 4C161/GG15 4C161/HH21 4C161/JJ06 4C161/JJ11		
代理人(译)	三井和彦		
审查员(译)	川端修		
其他公开文献	JP2004254886A		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

操作线的进退操作容易地调节，包括能够进行微调准确削波，而且内窥镜削波，其不需要复杂的结构装置，如棘轮或在操作单元上的像它提供。的夹子11，12布置在柔性鞘2的前端，该操作线4，其可缩回插入并布置在轴向方向上成柔性鞘2的柔性鞘2的基端以这种方式保持在闭合状态的夹子11,12与柔性护套2和操作线4分离在配置成允许，操作单元20，相对于柔性鞘2的基端部的基端上的内窥镜夹子装置并且在轴向方向上的操作线4通过旋转操作绕轴为了前进和后退。点域1

